



# スマート保育園® 通信

9  
月号

特集1 写真撮影が楽しくなった！第3回モデル園集合研修

特集2 モデル園インタビュー

コラム 保育者からの贈り物vol.1

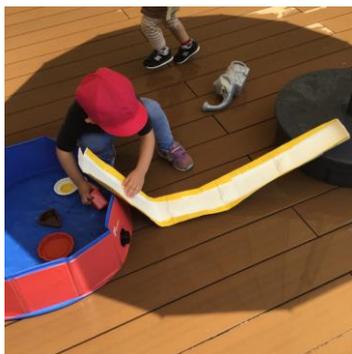
～我が子の興味はこれだったのか～

## 特集1

写真撮影が楽しくなった！  
第3回モデル園  
集合研修

8月25日に第3回スマート保育園@モデル園集合研修を開催しました。各参加者がチャレンジテーマに沿って撮影頂いた写真を利用し、実際にドキュメンテーションを作成しました。講師のフィードバックに加えて、他園の参加者コメントもあり、議論、意見交換に各チーム大変盛り上がりました。参加者の感想を紹介します。「写真を見て保育者同士で話し合うことの大切さ、楽しさに改めて感じました。」「子ども達の大切なひと時にストーリーをさまざまな場面を今まで以上に切り取り、職員・保護者間で共有したいと思いました。」

全4回のモデル園集合研修、9月28日最終回では各参加者が、講師陣、全参加者に向けてドキュメンテーションの発表します。（※10月号特集予定）今回スマート保育園9月号では、第3回モデル園集合研修で参加者が実際に使用した写真と写真活用事例の一部をご紹介します。



チャレンジテーマ：「子どもたちのワクワク！を見つけよう！」

（みどりキッズガーデン 西村先生）

子どもが水遊びに熱中するシーンです。

- 事例：牛乳パックを使った水遊び。様々な形に変えて、水の流れの違いを楽しみました。
- お子さま視点：（牛乳パックの）形を変えることで、水が行ったり来たり。同じ遊びを繰り返すと新しい発見もあるよ。
- 保育者視点：与えられた遊びではなく、自ら遊び、新たな発見をしてもらう事も大切。
- 今後の目標：決まった想定される遊び方ではなく、色々な素材を準備し、自分から選んで遊べるようにしていく。



チャレンジテーマ：「今日の出来事」を日々配信したい！

（認定こども園さくら 関口先生）

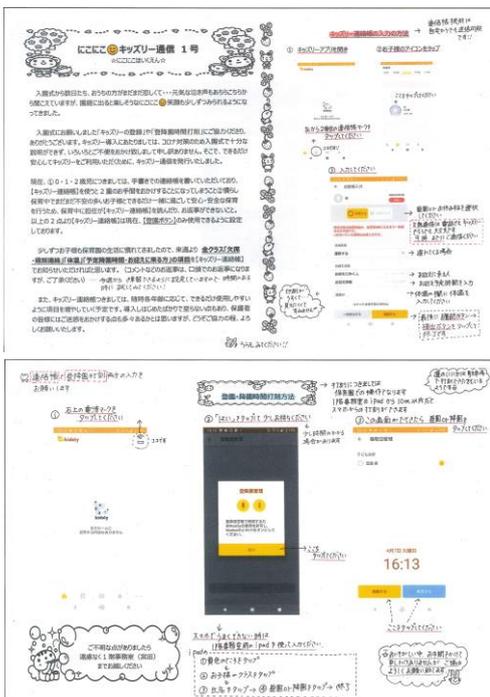
4・5歳児の「しゃぼん玉の中に入りたい」シーンです。

- 事例：中に入れるほどの大きなしゃぼん玉の作りたいお子さまは自ら作り方の検索。必要なものは、水と洗剤と、と砂糖と・・・と園内を探し回り、さあ実験開始！と、しゃぼん玉作りをしているワンシーン。
- お子さま視点：石鹸をたくさん入れれば、あわあわしているから、大きいのができるかな。4歳児が混ぜ合わせ、5歳児は見守る。
- 保育者視点：実験する楽しさ、面白さを感じてほしい。混ぜ合わせた液体をストローク、手、うちわの骨組みでしゃぼん玉を吹いて、みんな大喜びしてくれたが、もっと大きなしゃぼん玉にするため、どんな言葉掛けをしたらいいだろう。
- 今後の目標：こどもたちが、しゃぼん玉を1つのきっかけに今よりもっと楽しめる環境作りをしていく。

# 特集2 にこにこ保育園 人材育成マネージャー ICT推進担当 宮田先生 インタビュー



## ▼にこにこキッズリー通信



## ▼模造紙で作成した夏祭りの写真掲示 保育者、保護者の付箋コメントもあり



——にこにこ保育園はどんな園ですか？

「目の前の子どもを幸せにする」という保育理念を大切に、日々丁寧な保育を目指している園です。今年2020年4月の新設園なのですが、園長、主任とも頻りに話し合いながら、何かあっても、理念に立ち返って保育をすることを心がけています。

——姉妹園の中で初めてICTサービスを導入されたと伺いました。定着までどのような工夫がありましたか？

新設園である当園の入園式で、「私はキッズリー担当です！」と宣言しました！（笑）

園長、主任、と役職がある中、（人材育成マネージャーという役職がありながらも、）分かりやすく宣言することで保護者にICTの存在をお伝えし、相談しやすい環境を作りました。相談された際に、分からない事は隠さずに、「ルクミーさんに聞いてくけん、夕方まで待っててー」と正直に伝えていますが、ルクミーに問い合わせれば丁寧に回答をもらえることもあり、特にトラブルはありません。一緒に、学んでいる感じですね。

——保護者はICTサービス導入に対してどのような反応でしたか？

“保護者は想像以上にICTに前向き”でした。細かい説明がなくても、使いこなして下さる保護者が大半です。さらに、理解を促す意味でも、「にこにこキッズリー通信」を独自に作成・配布しています（左図）。にこにこキッズリー通信がきっかけで保護者同士が「それどうやるん？」と話している事もありますし、私としても、保護者とのデジタル、アナログ両側面でコミュニケーションができていくことは良い効果です。保護者の協力があること、巻き込むことはとても重要だと思いました。とても気に入って頂いています。また、当園は四国にある園なのですが、周囲に、ICTを積極的に活用できている園は少なく、入園希望の保護者から、興味を持って頂き、他にはどこの園がルクミー/キッズリーを利用していますかと聞かれるほどの注目度です。

——一方、保育者の利用で工夫されていることはありますか？

まだまだ発展途上ではあるのですが、保育者同士教えあって人間関係もいい雰囲気です。若い保育者にICTを教えてもらい、ベテランが保育を伝える。という形もよいと思っており、実践しています。若者も、プレゼンスを発揮できて嬉しそうです。マニュアルを見て、うまく使いこなしているのが、本当にすごいです。

キッズリー利用は、便利さを実践で感じてもらっています。コロナ対応の際、重要な連絡を、保護者へ一斉配信できたり、既読かどうかも分かりますし、園のInstagramを開始した際に、閲覧方法の案内もキッズリーで実施しました。一人ひとりにお伝えするより、キッズリーを利用した連絡の方が正確でカンタンでした。

——モデル園研修で写真活用、ドキュメンテーション作成を学んで、どのような効果がありましたか？

キッズリー×ドキュメンテーションで保護者やお子さまと、今までにないつながりができました！

今年は新型コロナウイルスの影響で、保護者参加型の夏祭りが中止になってしまい、お子さまだけの開催に。どのように保護者にお伝えしようか悩みに悩みました。この状況を良い機会と捉え、キッズリークラスフォト(クラス別掲示板の機能)での配信はもちろんのこと、靴箱横の壁に模造紙3枚をつなげ、そこに写真を貼って保育者のコメントを記載しました。毎日増えていく写真やコメントを親子で楽しそうに会話をしながら楽しむ様子や、保育者が写真を貼りながら、みんなで子どもたちの成長の様子を嬉しそうに語り合う姿も見られ、ドキュメンテーションはあったかな交流の場所となりました。

その後、保育者からの一方通行にならない方がいいなと思い、付箋とペンを置いておいて感想を書いて貼ってもらえる工夫もしました。

キッズリーでこの取り組みを伝えると、保護者や、在園児のお姉ちゃんがコメントや絵を書いてくれて非常に盛り上がりました。そして、この様子を、またもやキッズリーで配信（笑）。デジタルとアナログが融合し、お子さま、保護者、保育者みんながホッとする空間となり、保育園の独自性を出すのに良いプラットフォームだと思っています。

法人に約100名の職員がいますが、全員が同じ研修を受けられない分、学んだことはなるべく共有していこうとしています。

（「全部は難しいんですけどね」と最後まで熱心で、温かく、おちゃめな宮田先生でした）

宮田先生が集合研修で作成したドキュメンテーションを紹介します。

チャレンジテーマ：**ちいさな しあわせ みつけた**

写真の選定時点から、エピソードがありました。

「入園時のA君は、思い通りにならない事があると泣いたり怒ったりして気分の切り替えが難しい時期でした。当時は、ご両親も悩み、保育者は何度か相談を受けておりました。ドキュメンテーションの題材として、別の遊んでいる様子の写真にしようとも思っていたのですが、保育者間で「この写真を見ながら先生方でいろいろ話合ったよね！」と園のみんなでこの写真に決めました。」宮田先生はキッズリー連絡帳で保護者に、この写真をこっそりプレゼントし、さらにこの写真をお守りとして、時々取り出して眺めているそうです。「ふとした写真が私たち保育者を支えてくれます。思い通りにならない事にも全力でぶつかっていく子どもたちを、私たちは精一杯応援しようと思ってます。」

集合研修では他モデル園の参加者から「この後ろ姿から、お母さんが悩んだ姿や、保育者が寄り添っていた姿が思い浮びます。同時にほっとしている感覚も感じますね」「問題だけを見て、その場を収めるだけでなく、ふとしたシーンを見ることは大切です。寄り添う保育者がいるからお子さまもお母さまも頑張れるのかも」とのコメントがありました。

テーマ： **ちいさな しあわせ**  
**みつけた** 



①事例…3歳児男児/H君

H君は4月に入園してきて毎日いろいろ戸惑うことばかり…自分の思うようにならないことが起きるとパニックになることも度々。そんな毎日にお家の方も困惑し、少し疲れ気味。そのような毎日の中で降園前にみかけた小さな幸せな瞬間・・・

②読み取り

（子どもの経験や学びについて読み取ったこと）

- ・少し前まで帰りにくいと大声で泣いていたH君と、その姿を見てとっども困っていたお母様だったが、その後しばらくして遊具に腰掛ける二人をみつけた。
- ・お母様に寄り添う小さな後ろ姿のH君の安心した幸せそうな様子、また、お母様の後ろ姿もH君を愛おしく思う気持ちがこちらまで伝わって来て、とても幸せそうな光景だった。

③考察

（保育者として自分が感じ、考え、したいと思ったこと）

- ・H君に対して、保育者が困っていること・できないことに目を向けるのではなく、今H君やお家の方が何に困り・どうして困っているのか？どうしたいのかという想いに寄り添っていきたい。

④今後の目標（めざしたいこと）

- ・H君が楽しいな！やってみたいな！幸せだな！と感じられる瞬間が少しでも感じられるように、小さな幸せと一緒に積み重ねていきたい。
- ・H君が体験した楽しいこと・すごいなあ～と思うこと・気づいたことなどを本人や保育者やお家の方と一緒にいっぱい語り合い、みんなで楽しいことや嬉しいことを分かちあおう！

**保 育 者 か ら の 贈 り 物 Vol.1**

1歳5か月になる長男「かいと」は、2020年7月から保育園に通っています。活発なかいとは、保育園を思い切り楽しんでいるようで、朝食後は私のもとへ抱っこ紐を持ってきて「（早く保育園に連れて行ってくれー!）」と必死に訴えかけます。ある日、担任の先生からICTの連絡帳で「今日のかいと君は、お部屋で長い時間、型はめに集中してましたよ」とのコメントが。お迎えの際にも「ほんとにずっとずっと集中してたんですよ!」と先生。それでは!と、我が家でも「型はめ」を購入し、長男へプレゼント。頭をフル回転させて、見たことのない集中力を発揮し、型にはめ込もうとしている姿は、新人パパとして感動するものがあります。さらにそれでも飽き足らず、ガムテープの輪にぐちゃっとさせた紙を入れたり出したり。お風呂の椅子の穴に石鹸を入れてみたり。石鹸の思いのほか大きな落下音に目が点になったり（笑）



保育園の先生のメッセージがなければ我が子は、園でどんな風に過ごしていて、園では何に興味を感じ、どれだけの集中力があるかも気づけなかったかと思えます。先生方が一人一人の園児の様子を連絡帳を通して、さらに送迎時にかけがえのない一言を家庭に届けてくださることに感謝です。私たちの知らない我が子の発見です。





全国の数百園のご応募の中から、スマート保育園®のモデル園11園が選出されました。

# 当園は、スマート保育園®のモデル園です。

## 1.

複雑な保育の現場業務を、見える化し、その中にひそむ課題を洗い出します。

## 2.

ルクミーの全5サービス\*を全て導入して、園業務を効率化し、保育者がお子さまに向き合う時間を増やします。



### スマート保育園®って？

テクノロジーの支援で保育者の「心」と「時間」にゆとりが生まれ、子どもと向き合うことに集中できる保育園です。

お子さまと「もっと向き合いたい」という、保育者の想いを支えます。

スマート保育園になると、子どもにとってはどう良くなるの？

紹介動画をご覧ください



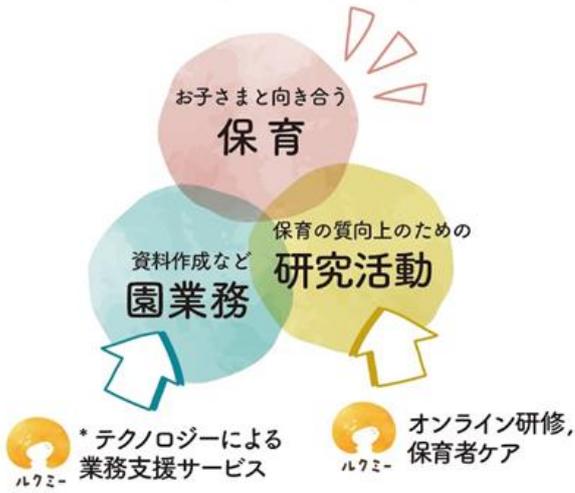
※お使いのカメラアプリで、QRコードが読み取れます。



全国のモデル園

## 3.

保育者へのオンライン研修や保育者ケアなど、保育の質向上への支援を受けます。



## ルクミーが見た 保育者のお仕事

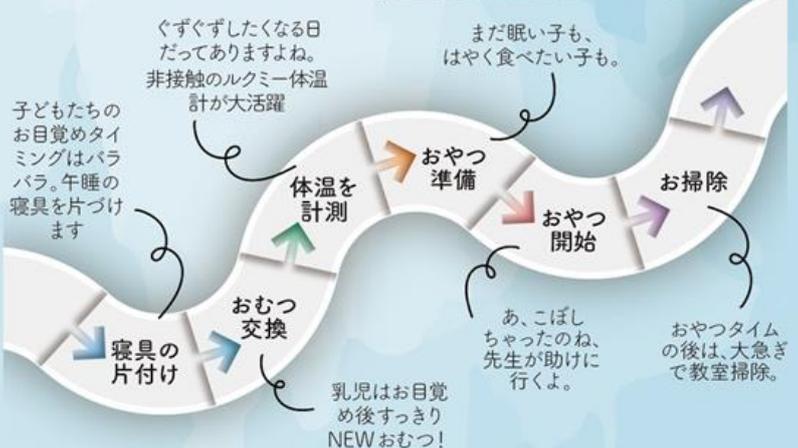
スマート保育園®モデル園には、業務内容の把握・測定のために、定期的にヒヤリングや現場訪問(コロナ期間中はオンライン)を行っています。今回は保護者の皆様へ、そこで見てきた保育者の業務の一部をご紹介します。

### A.

おやつタイムは戦場です。

### Q.

おやつ時間って先生は何をしているの？



この一連の業務を複数の先生が見事な連携プレーで完結させていく姿は、圧巻です。この間も急に立ち上がったたり、抱っこして欲しくなったりする園児を、先生は優しく包み込んでくれます。さいごに職員室や教室の隅で園児と同じおやつを食べている先生の後ろ姿に、心から「お疲れ様でした」と想うルクミーなのでした。

Creating new infrastructure for society that brings happiness to families around the world

家族の幸せを生み出す  
あたらしい社会インフラを  
世界中で創り出す

